竹林問題解決のために活動する「SDGs研究班」の活動が評価

★ 産直ドミノ基金アワード2024
最高賞の「CEO特別賞」を受賞!

※国内の農林水産業に関わる課題にチャレンジし、地域に根差した活動をする団体を表彰。(株)ドミノ・ピザ・ジャパンが主催。

CEO（最高経営責任者）のマーティン・スティーンクス氏が5月23日、菊農を訪れ表彰式が行われました。研究班の生徒らは「受賞できたことに驚いている。とてもうれしい。竹林問題解決のために特に力を入れていたのが『段ボールコンポスト』の取り組み。それをもっといろいろな人に知ってもらい、体験してもらって活動の輪を広げていきたい」と話しました。マーティン氏は「若い世代の人が関わった素晴らしい取り組み」と称賛。賞金100万円が贈られました。賞金は、竹をテーマに活動する全国の高校との交流などに充てることを検討しています。

※SDGs研究班の活動は6年前、栽培するトウモロコシなどが野生動物に食べられてしまうことがきっかけに始まった。鳥獣被害のことを調べる中、里山や竹林の荒廃が原因の一つであることを知り、地域の竹林問題解決にと活動と広がった。後輩へと受け継がれ継続。段ボールコンポストの普及のために、JA菊池女性部との交流も深めている。伐採した竹を活用した竹灯籠づくりや、タケノコの消費拡大につなげるためレシピ開発などにも取り組み、干しタケノコを具にした「おやき」作りなどもしている。

★「記事活用エピソード」募集
学生・生徒の部で最優秀賞を受賞!

※日本農業新聞の記事を読み活用することで、営農や生活、勉強に役だったエピソードや事例を読者から募集。日本農業新聞が主催。

SDGs班の農業科3年・渡辺悠慎さんが応募し高校生で初めて受賞。5月8日に開かれた第55回日本農業新聞全国大会に出席し表彰を受けました。受賞スピーチも行い「新聞で見つけた西川さんの記事に共感し、直接会いに行くこともでき、多くのことを学ぶことができた。脱炭素社会の実現や、人も地球も笑顔になれる社会を目指して活動を続けていきたい」と今後の目標を力強く語りました。

※SDGs研究班は、竹林問題の解決に向けた竹資源プロジェクトで生ゴミが堆肥化できないかと、竹チップを使った段ボールコンポストの開発と普及に取り組んでいる。研究班の一員である渡辺さんは、日本農業新聞を通して、家庭でもできる生ゴミ処理機の普及に取り組む西川美和子さんの記事を見つけた。地域は違っても環境問題の解決や脱炭素社会の実現に向けた活動に励まされたという。そのことをエピソードにまとめた。